

北海道大学総合博物館来館者調査
調査結果

平成30年10月

調査概要

●調査方法

総合博物館のメインエントランスの外に調査員を配置し、平日、土日を含む4日間、来館者への調査票の配布、退館者からの調査票の回収、必要に応じて聞き取りにより調査票へ転記して調査を実施。属性データの回収数確保のため、属性のみの聞き取りも実施。

●調査対象者

総合博物館来館者

●回収数

有効票:4,047(回答用紙受取数:4,053)

●調査実施日

平成30年8月2日(木)、4日(土)、9日(木)、12日(日)

調査結果概要

●来館者の使用言語は「日本語」が約8割

- ・使用言語(使用回答用紙言語)は、「日本語」が76.0%となっており、来館者の約8割が日本語利用可能者である。
- ・2月調査時は「日本語」は49.2%。

●来館時間は「12:00～17:00」が最も多い

- ・来館者全体の56.6%が「12:00～17:00」に来館している。
- ・2月調査時も同様の結果。

●性別は女性の割合がやや高い

- ・「女性」は51.8%、「男性」は47.3%。
- ・「男性」は「10代(29.4%)」、「20代(13.4%)」と、「50代」以上の年代で女性より割合が高いが、「30代(16.5%)※」、「40代(24.0%)※」は女性の割合が高い。※女性の割合数値
- ・2月調査時は、男女比はほぼ1:1だったが、「30代」以上の各年代で女性の割合が高かった。

●年代は「10代以下」が最も高い、職業は「その他」が最も高い

- ・年代は「10代以下」が25.6%と最も高い。次いで「40代(20.9%)」「30代(14.3%)」となっている。
- ・職業は「その他」が32.6%と最も高い。次いで「会社員」が31.1%となっている。
- ・「小学生(12.5%)」「大学生・大学院生(12.1%)」が約1割である。
- ・「高校生」の学年は「高校2年生(40.0%)」が最も高い。
- ・2月調査時は、年代は「20代(31.1%)」が最も高く、職業は「会社員(36.5%)」が最も高かった。「小学生」の割合は3.9%だった。

●住まいは「日本国内(北海道を除く)」「北海道内(札幌市を除く)」「札幌市内」が合計で78.2%

- ・「日本国内(北海道を除く)」が最も高く40.9%。次いで「札幌市内」が27.7%。
- ・日本以外の地域では、「中国」が9.9%と最も高い。
- ・「高校生」の住まいは「日本国内(北海道を除く)」が最も高く、65.8%。
- ・2月調査時は「日本国内(北海道を除く)」「北海道内(札幌市を除く)」「札幌市内」が合計で66.3%。「中国」が19.9%だった。「高校生」の住まいは「日本国内(北海道を除く)(64.6%)」が最も高く、今回と調査とほぼ同じ割合を占めた。

●調査日ごとは「高校生」は8月4日の来館が最も高い

- ・いずれの日も年代は「10代以下」、住まいは「日本国内(北海道を除く)」が最も高い。
- ・職業別にみると「高校生」は8月4日の来館が43.6%と最も高い

●北海道大学訪問の主目的は、「博物館以外」の訪問が51.3%。「博物館の訪問」が43.4%

- ・博物館の来館回数は、「はじめて」が72.2%と最も高いが、次いで「3回以上(14.3%)」となっている。
- ・来館目的は、「展示を見るため」が79.8%と最も高い。
- ・2月調査時でも各項目の最も高い割合のものは同じであった。

調査結果概要

● 博物館の情報を何で(どこで)入手したかについては、「通りかかって」が最も高い

- 「通りかかって」が34.3%。次いで「家族・友人・知人」からが25.3%。
- 男女別でも「通りかかって」が最も高い。年代別で見ると、「20代」から「70代」までの年代は「通りかかって」が最も高い。
- 職業ごとにみると「小学生」「中学生」は、「家族・友人・知人」からが最も高い。
- 住まいごとにみると「札幌市内」「北海道内(札幌市を除く)」は「家族・友人・知人」が最も高い。
- 2月調査時では、「60代」は「当博物館のウェブサイト」が最も高かった。

● ショップに希望する品揃えは49.1%が「北海道大学らしい商品」

- 「北海道大学らしい商品」に次いで、「博物館らしい商品」が20.6%。
- ショップでは商品を「購入しなかった」が45.9%。購入した場合、その用途は「自分への記念品」が26.2%と最も高い。
- カフェでの飲食は「飲食しなかった」が52.8%。飲食した場合、飲食したものは「スイーツ」が20.0%と最も高い。
- 2月調査時も各項目の最も高い割合のものは同じであった。

● 大学構内の訪問場所は「クラーク像(胸像)」が最も高い

- 「クラーク像(胸像)」は28.0%。次いで「ポプラ並木(26.9%)」「イチョウ並木(18.7%)」。
- 住まい別で見ると、「札幌市内」「北海道内(札幌市を除く)」からの来館者は、「博物館以外は訪問しない」が最も高い。
- 2月調査時は「クラーク像(胸像)(19.9%)」に次いで「キャンパス全体(15.2%)」「ポプラ並木(14.4%)」だった。

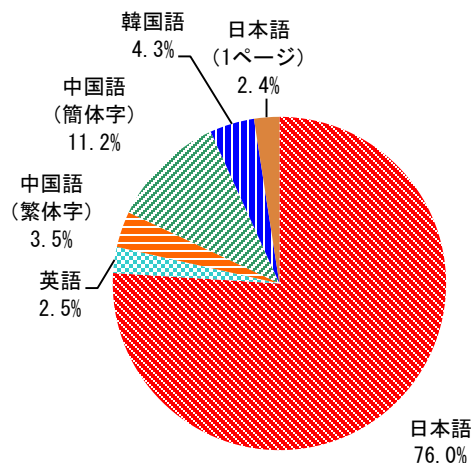
● 北海道大学に対するイメージは「良くなった」と「とても良くなった」が合わせて76.9%

- 全体の割合で「とても良くなった」が最も高い。
- 職業別で見ると、「小学生」「中学生」「会社員」が「とても良くなった」が最も高い。
- 住まい別で見ると、「札幌市内」「北海道内(札幌市を除く)」「日本国内(北海道を除く)」「中国」「マレーシア」が「とても良くなった」が最も高い。
- 2月調査時は全体の割合は「良くなった」が最も高かった。

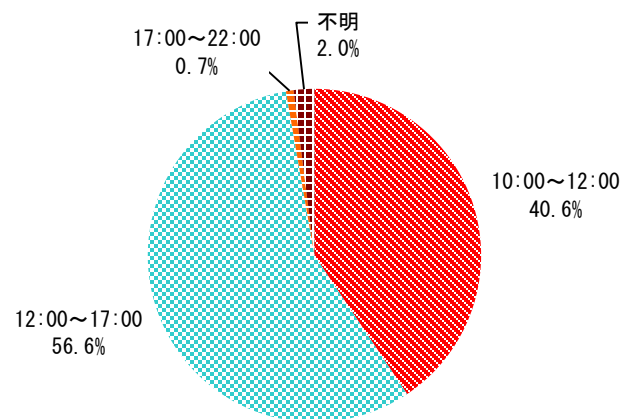
来館者属性項目 【Q0】使用言語 【Q1】来館時間

※SA=単数回答 MA=複数回答

【Q0】使用言語 <SA> (N=4047)



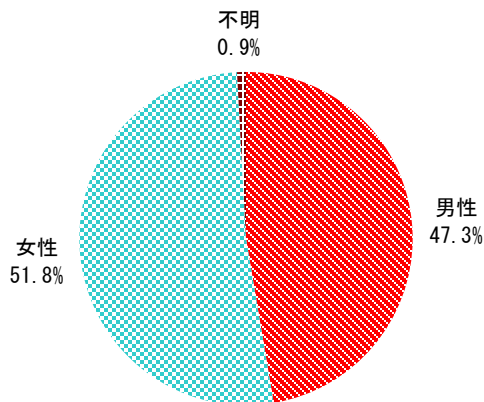
【Q1】来館時間 <SA> (N=4047)



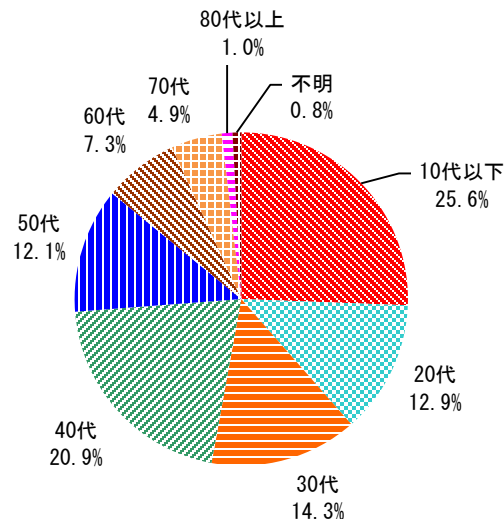
使用言語(使用回答用紙言語)は、「日本語」が76.0%となっている。日本語以外の言語では、「中国語(簡体字)」が11.2%、次いで「韓国語(4.3%)」、「中国語(繁体字)(3.5%)」、「英語(2.5%)」の順になっている。来館時間は「12:00~17:00」が56.6%で最も高い。2月の調査では、「日本語」「日本語(1ページのみ)」が67.2%、次いで「中国語(簡体字)(16.7%)」、「中国語(繁体字)(6.5%)」、「韓国語(4.9%)」、「英語(4.6%)」だった。同様に来館時間は「12:00~17:00」が63.0%で最も高かった。

来館者属性項目 【Q2】性別 【Q3】年代

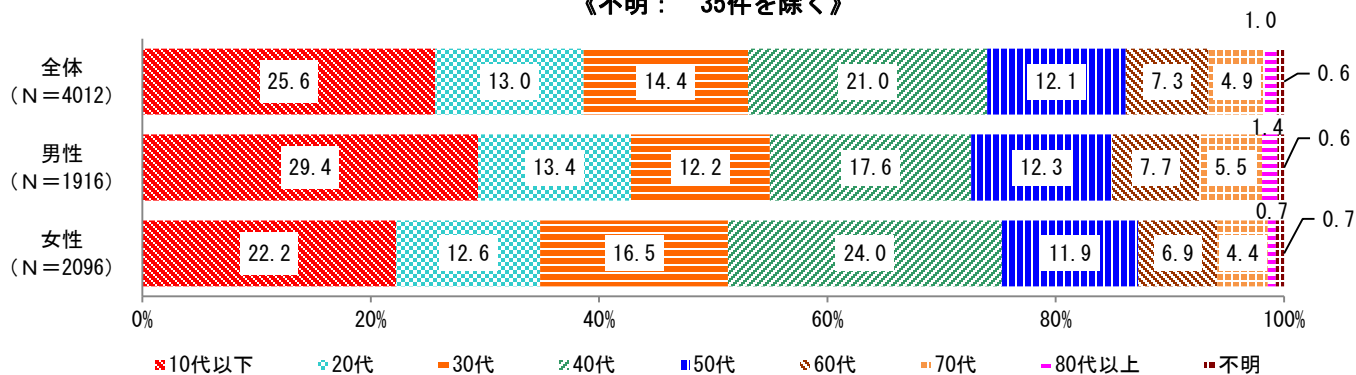
【Q2】性別 <SA>(N=4047)



【Q3】年代 <SA>(N=4047)



性別×年代 (N=4012)
《不明： 35件を除く》

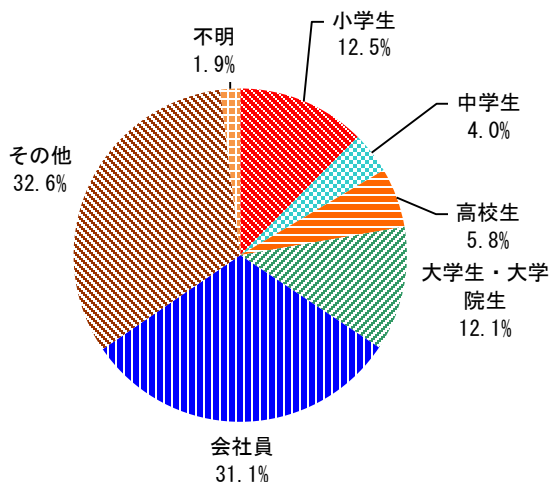


性別は、「女性」51.8%、「男性」47.3%、とほぼ半数となっている。年齢は「10代以下」が25.6%で最も多く、次いで「40代(20.9%)」、「30代(14.3%)」の順で高くなっている。男女・年代別でみると、男性は「10代以下」が29.4%と最も高く、次いで「40代(17.6%)」、「20代(13.4%)」となっている。女性は「40代」が24.0%と最も高く、次いで「10代以上(22.2%)」、「30代(16.5%)」となっている。

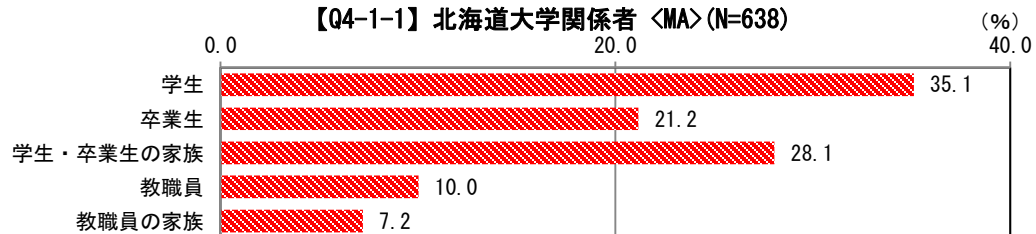
2月の調査では、性別は本調査とほぼ同じ。年齢は「20代」が最も高く31.1%、次いで「30代(18.2%)」、「40代(14.4%)」、男女年代別は、男性が「20代」が最も高く32.8%、次いで「30代(17.5%)」、「40代(13.1%)」だった。女性は「20代」が最も高く29.5%、次いで「30代(18.9%)」、「40代(15.6%)」だった。

来館者属性項目 【Q4】職業

【Q4】職業 <SA> (N=4047)

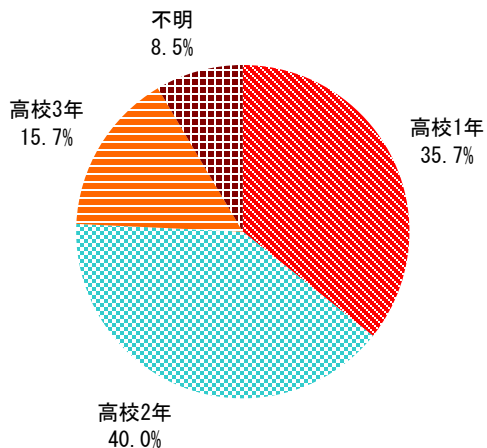


【Q4-1-1】北海道大学関係者 <MA> (N=638)



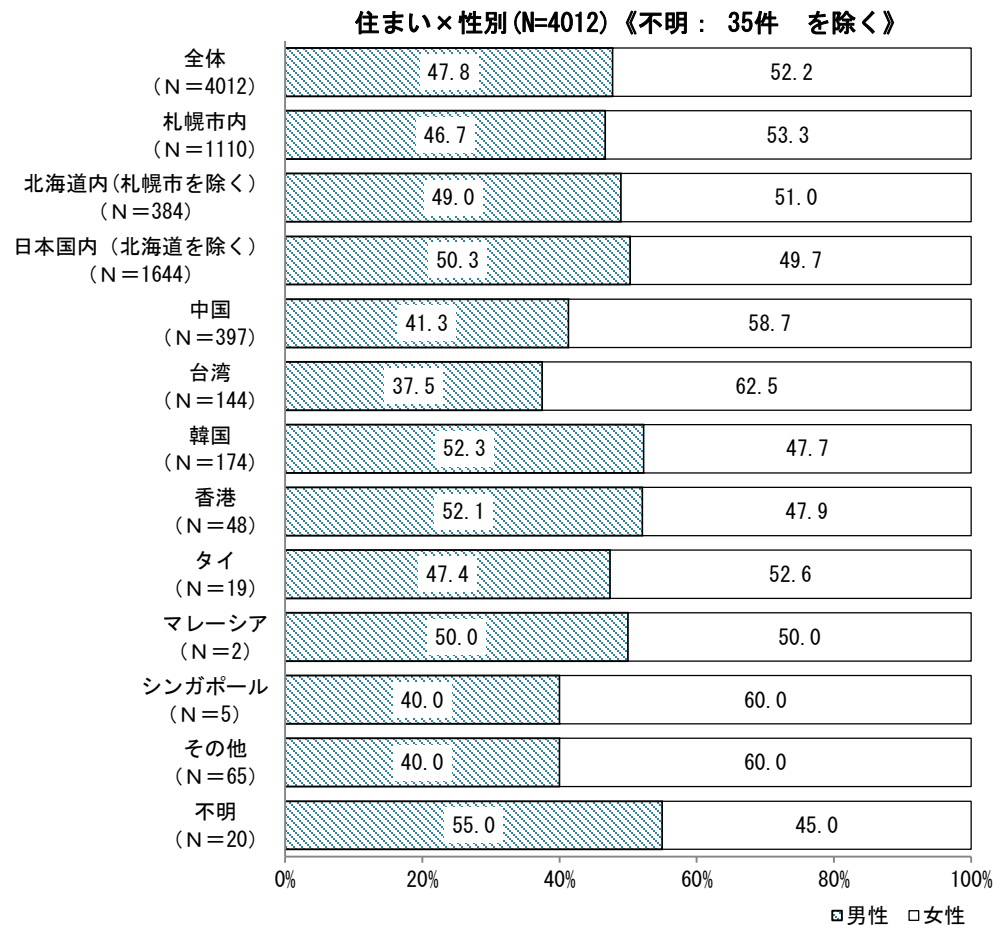
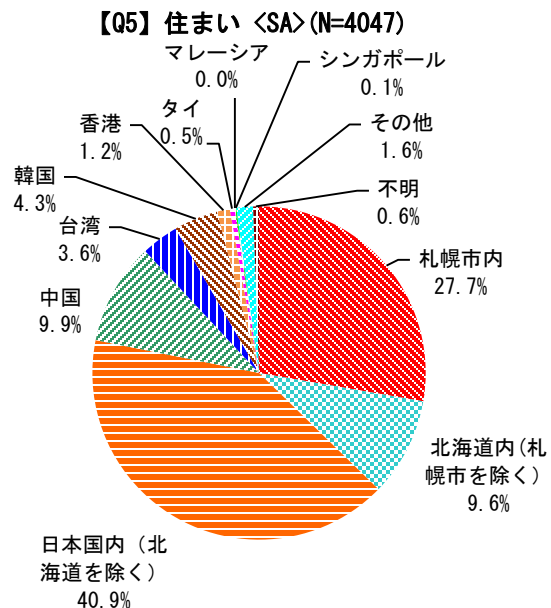
【Q4-1】高校生学年<SA> (N=235)

《不明に日本の学年制度と異なる回答を含む》



職業は、「その他」が32.6%で最も高く、次いで「会社員(31.1%)」、「小学生(12.5%)」、「大学生・大学院生(12.1%)」、「高校生(5.8%)」、となっている。「その他」には、主婦、自営業、無職の記載がみられた。高校生の学年は「高校2年生」が40.0%と最も高い。北海道大学関係者は、「学生」が最も高い。2月の調査では、職業は「会社員」が36.5%で最も高く、次いで「その他(27.4%)」、「大学生・大学院生(24.8%)」、「高校生(4.1%)」、「小学生(3.9%)」だった。北海道大学関係者は本調査と同様の順位だった。

来館者属性項目 【Q5】住まい

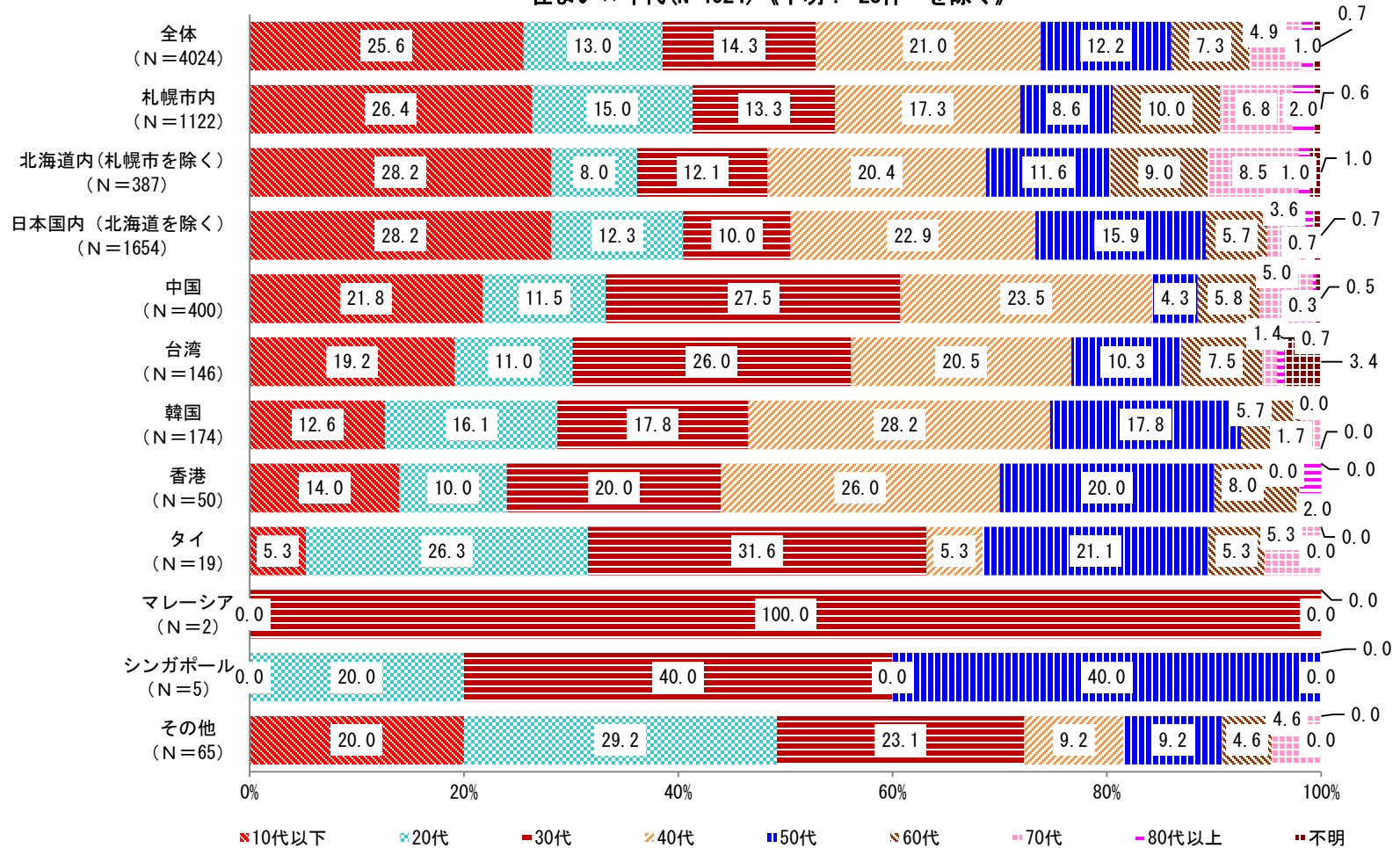


住まいは、「日本国内(北海道を除く)」が最も高く40.9%となっている。次いで「札幌市内(27.7%)」、「中国(9.9%)」、「北海道内(札幌市を除く)(9.6%)」となっている。住まいごとの性別の割合を見ると「その他」「不明」を除き、「韓国」「香港」「日本国内(北海道を除く)」は男性の割合がやや高い。「台湾」「中国」「シンガポール」は女性の割合が約6割となっている。

2月の調査では、住まいは、「日本国内(北海道を除く)」が最も高く31.1%、次いで「札幌市内(28.1%)」、「中国(19.9%)」、「北海道内(札幌市を除く)(7.1%)」だった。住まいごとの性別の割合は、「韓国」「北海道内(札幌市を除く)」「日本国内(北海道を除く)」は男性の割合が高く、「香港」「タイ」「中国」「台湾」は女性の割合が高かった。

来館者属性項目

住まい×年代(N=4024)《不明：23件を除く》



住まいごとの年代の割合をみると、「札幌市内」「北海道内(札幌市内を除く)」「日本国内(北海道を除く)」からの来訪者は「10代以下」が最も高い。「中国」「台湾」「タイ」「マレーシア」「シンガポール」は「30代」が最も高い。「韓国」「香港」は「40代」が最も高い。2月の調査では、「韓国」「マレーシア」「中国」「台湾」「札幌市内」「日本国内(北海道を除く)」「北海道内(札幌市を除く)」からの来訪者は「20代」が最も高かった。「香港」からの来訪者は「20代」と「30代」の割合が同じで、次いで「50代」の割合が高かった。

来館者属性項目

※上位3つまでを次の色で示す。■ = 上位1位 ■ = 上位2位 ■ = 上位3位

職業×住まい《不明：78件を除く》

(%)

	札幌市内	北海道内 (札幌市を除く)	日本国内 (北海道を除く)	中国	台湾	韓国	香港	タイ	マレーシア	シンガポール	その他	不明
全体 (N=3,969)	27.5	9.6	41.1	10.0	3.7	4.3	1.2	0.5	0.1	0.1	1.6	0.4
小学生 (N=504)	39.7	11.1	32.7	9.5	2.8	1.6	0.6	0.2	-	-	1.0	0.8
中学生 (N=163)	14.1	8.0	56.4	14.7	1.2	3.1	1.2	-	-	-	1.2	-
高校生 (N=234)	10.7	8.5	65.8	6.0	3.4	3.0	1.3	-	-	-	1.3	-
大学生・大学院生 (N=489)	36.0	5.7	30.9	12.5	6.5	3.7	0.8	0.4	-	0.2	2.9	0.4
会社員 (N=1,259)	20.7	7.4	43.9	12.6	5.0	6.6	1.7	0.3	0.2	0.1	1.2	0.3
その他 (N=1,320)	30.8	12.9	39.1	6.8	2.0	3.9	1.1	0.9	-	0.2	1.9	0.5

職業ごとの住まいをみると、「高校生」「中学生」「会社員」は、「日本国内(北海道を除く)」が最も高い。「小学生」「大学生・大学院生」は「札幌市内」が最も高い。

2月の調査では、「高校生」「会社員」は、「日本国内(北海道を除く)」が最も高かった。「大学生・大学院生」は、「札幌市内」が最も高く、「小学生」「中学生」は、「中国」が最も高かった。

来館者属性項目 調査日ごと

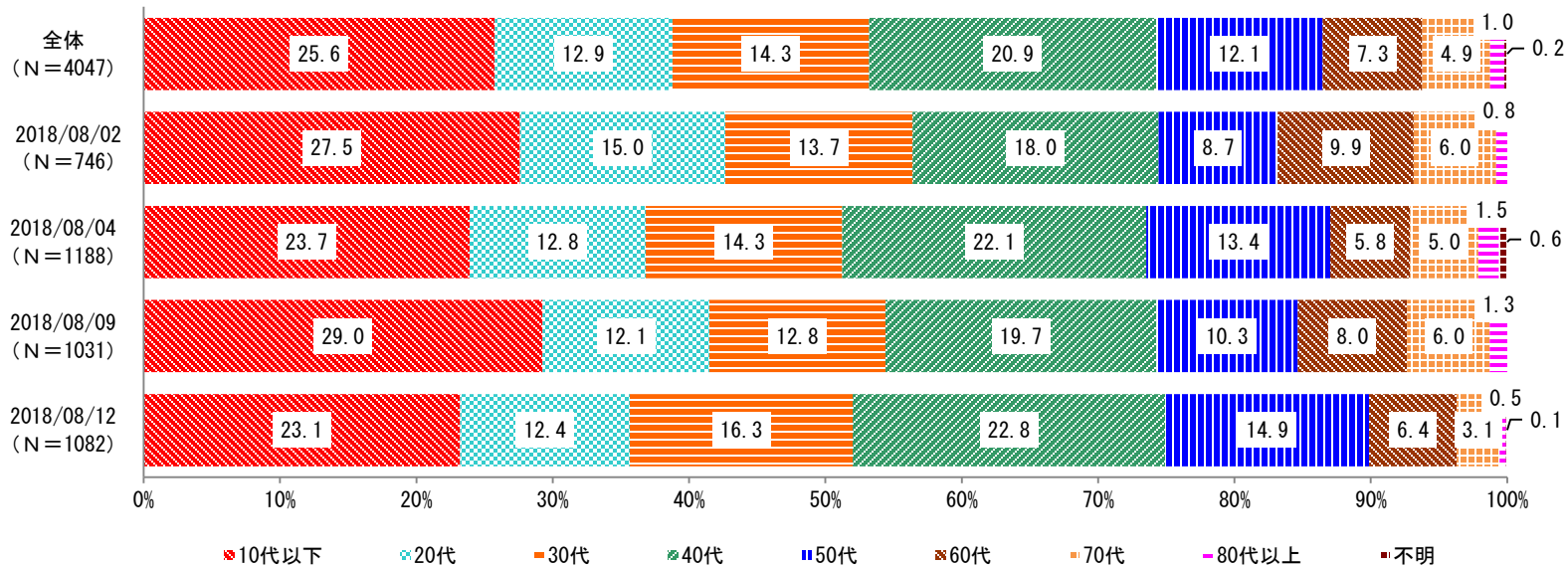
<参考> 調査日前後の学内行事・曜日等

8月3日（金）：夏季企画展スタート

8月5日（土）、6日（日）：オープンキャンパス

8月11日（土）：祝日

調査日×年代 (N=4047)



調査日ごとの年代をみると、いずれの日も「10代以下」が最も高く、次に「40代」が高い。8月2日は、3番目に「20代」が高く、4日、9日、12日は3番目に「30代」が高い。

来館者属性項目 調査日ごと

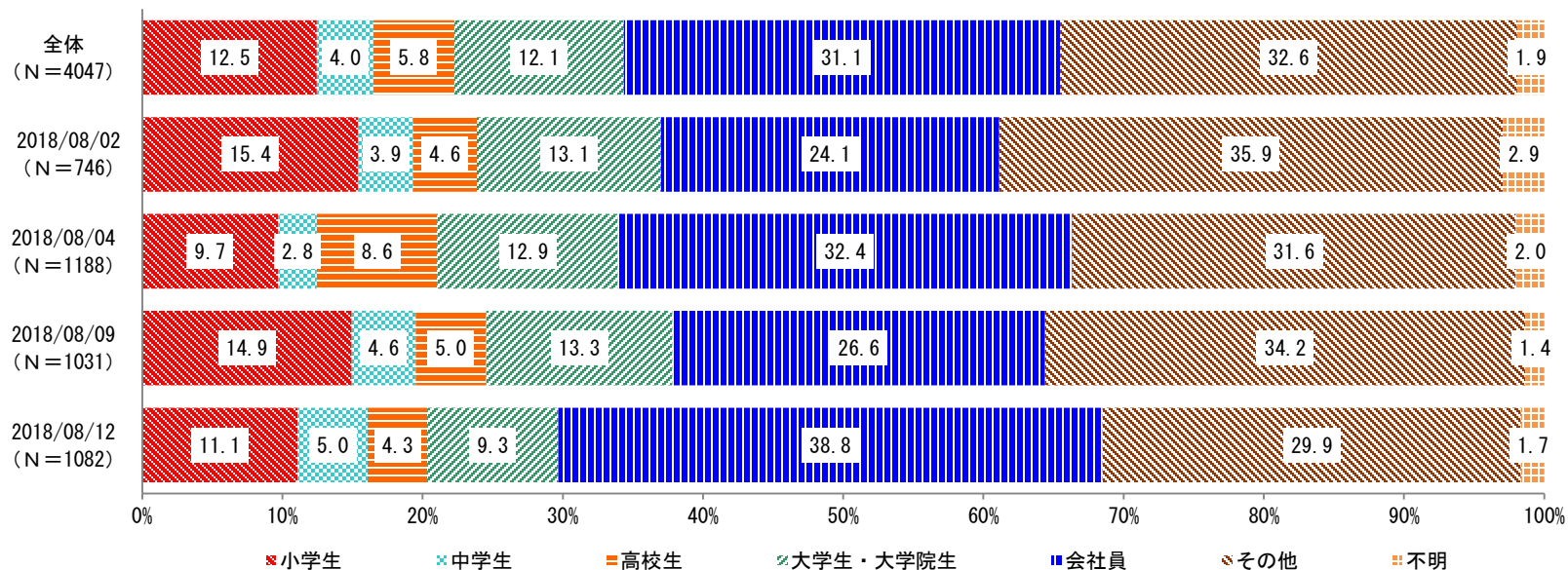
<参考> 調査日前後の学内行事・曜日等

8月3日（金）：夏季企画展スタート

8月5日（土）、6日（日）：オープンキャンパス

8月11日（土）：祝日

調査日×職業 (N=4047)



調査日ごとの職業をみると、8月2日、9日は「その他」が最も高く、次に「会社員」が高い。4日、12日は「会社員」が最も高く、次に「その他」が高い。2日、9日、12日は3番目に「小学生」が高い。7日は3番目に「大学生・大学院生」が高い。

来館者属性項目 調査日ごと

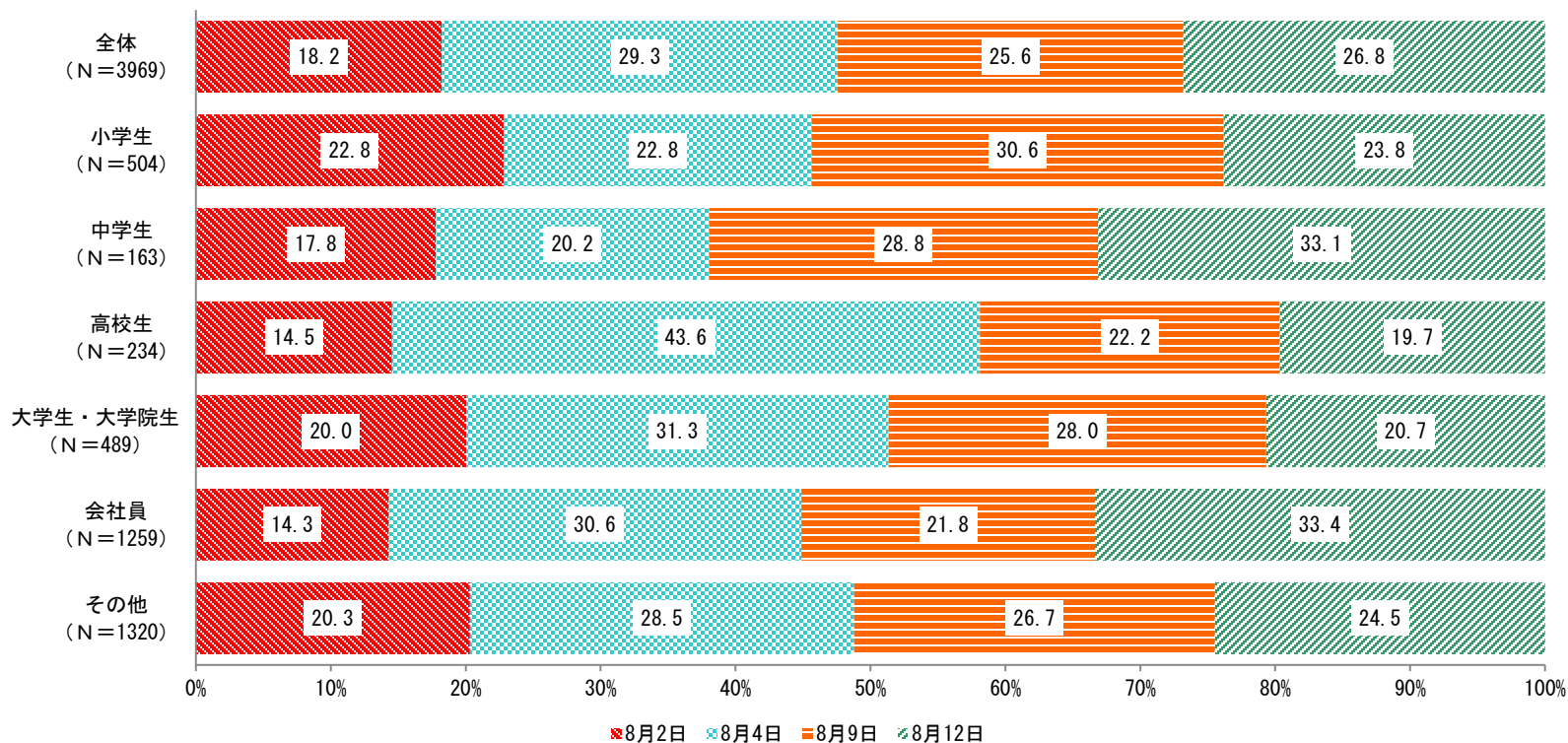
<参考> 調査日前後の学内行事・曜日等

8月3日（金）：夏季企画展スタート

8月5日（土）、6日（日）：オープンキャンパス

8月11日（土）：祝日

職業×調査日 (N=3969)
《不明：78件 を除く》



職業ごとの調査日をみると、「高校生」「大学生・大学院生」「その他」は8月4日が最も高い。特に「高校生」は43.6%と高い割合になっている。「中学生」「会社員」は8月12日が最も高い。「小学生」は8月9日が最も高い。

来館者属性項目 調査日ごと

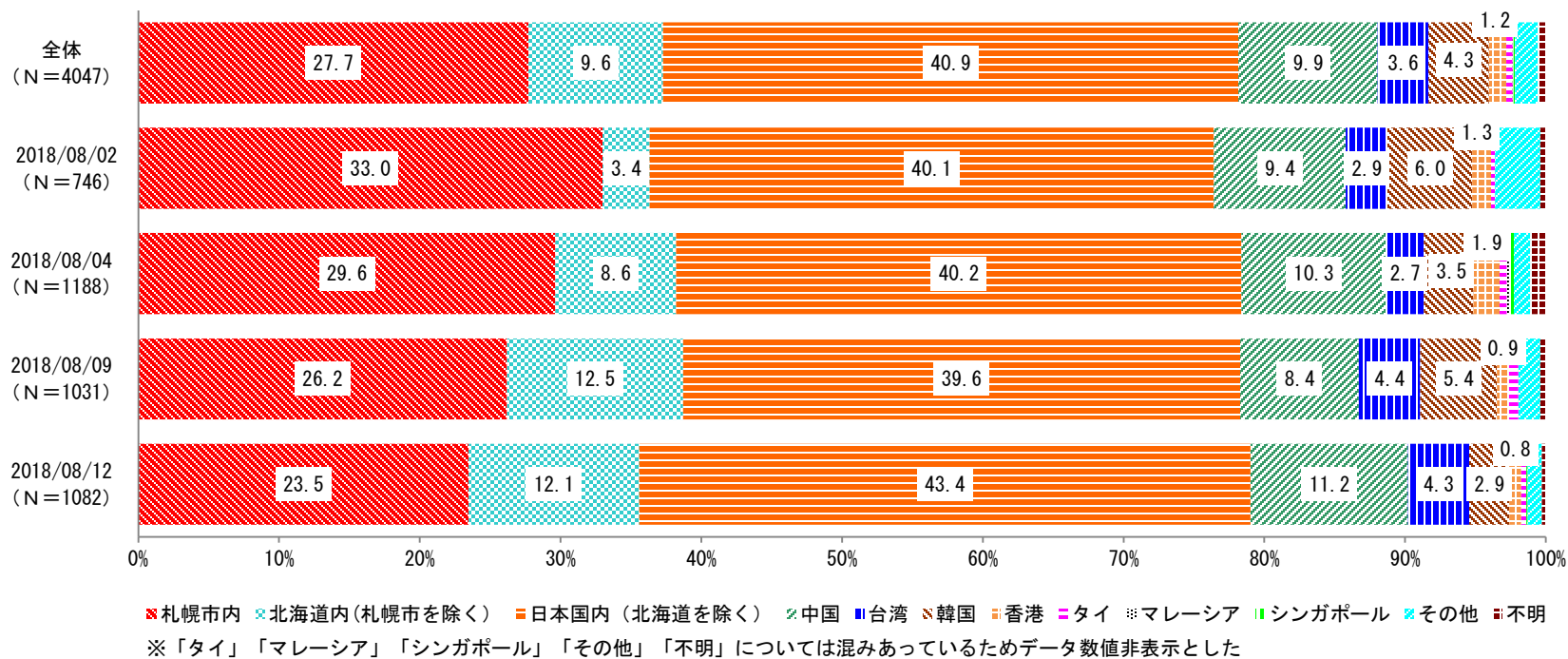
<参考> 調査日前後の学内行事・曜日等

8月3日（金）：夏季企画展スタート

8月5日（土）、6日（日）：オープンキャンパス

8月11日（土）：祝日

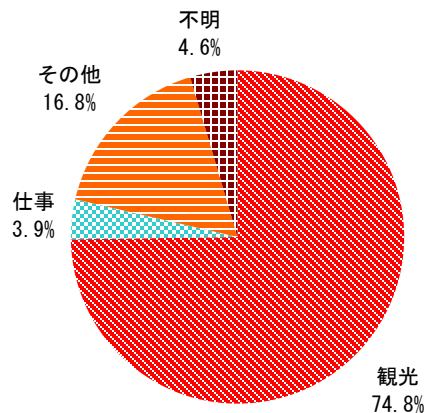
調査日×住まい (N=4047)



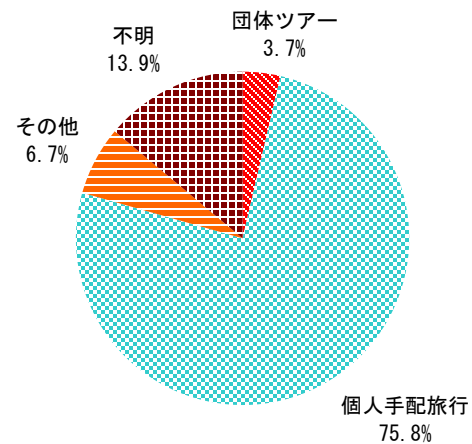
調査日ごとの住まいをみると、いずれの日も「日本国内(北海道を除く)」が最も高く、次に「札幌市内」が高い。8月2日、4日は3番目に「中国」が高い。9日、12日は3番目に「北海道内(札幌市を除く)」が高い。

来館者属性項目 【Q5-1】北海道・札幌訪問の主目的 【Q5-2】旅行の形式

【Q5-1】北海道・札幌訪問の主目的<SA>(N=2902)
《非該当：1145件 を除く》



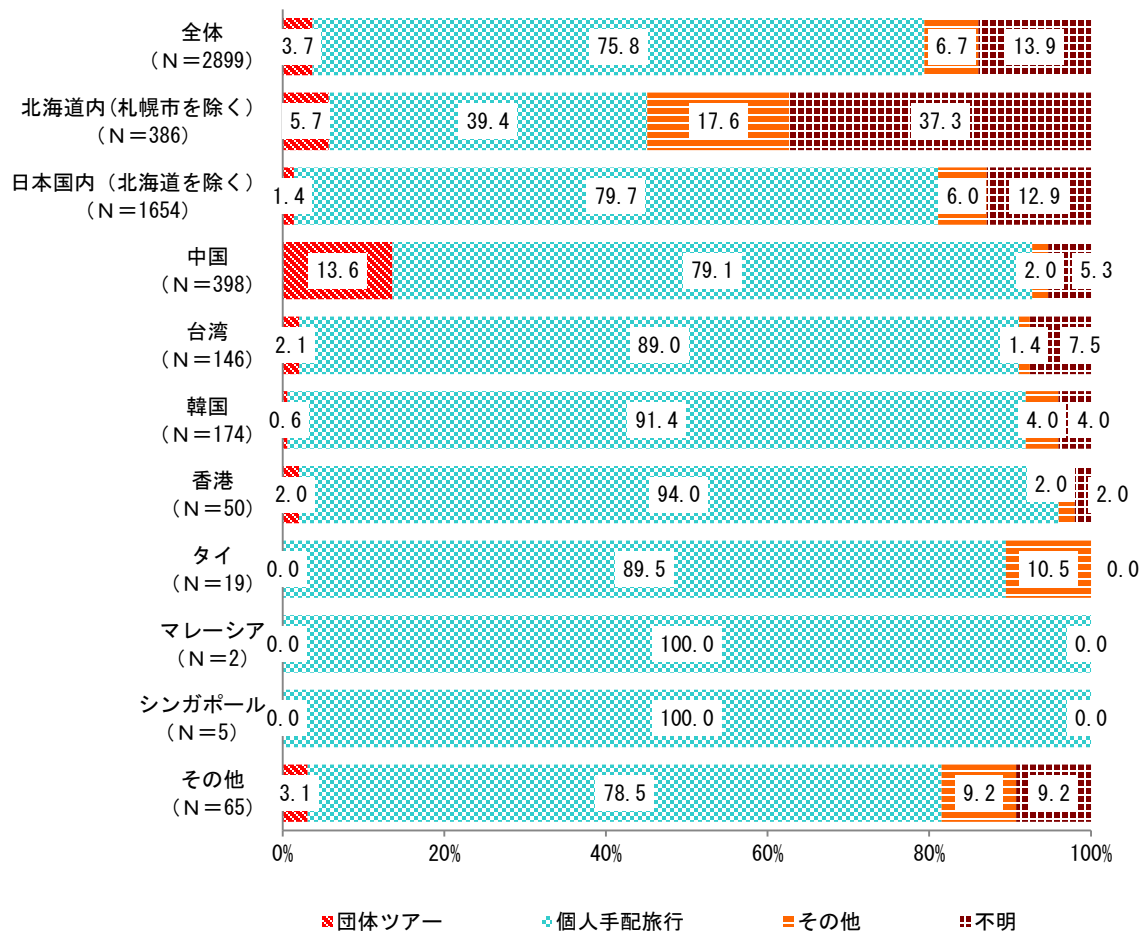
【Q5-2】旅行の形式 <SA>(N=2899)
《非該当：1148件 を除く》



北海道外からの来訪者の北海道・札幌訪問の主目的は、「観光」の割合が74.8%と最も高い。旅行の形式は「個人手配旅行」の割合が75.8%と最も高い。2月の調査でも同様の結果だった。

来館者属性項目

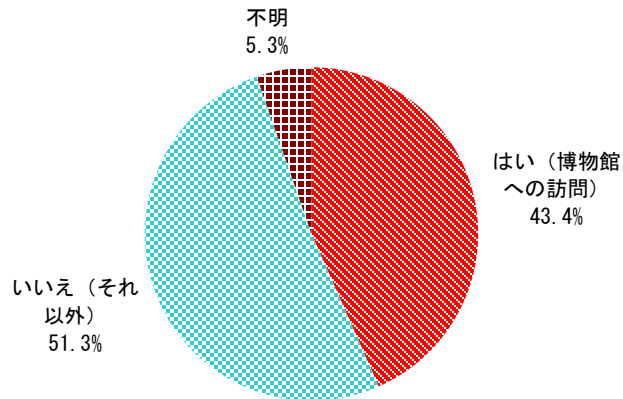
住まい×旅行形式 (N=2899) 《非該当：1148件 を除く》



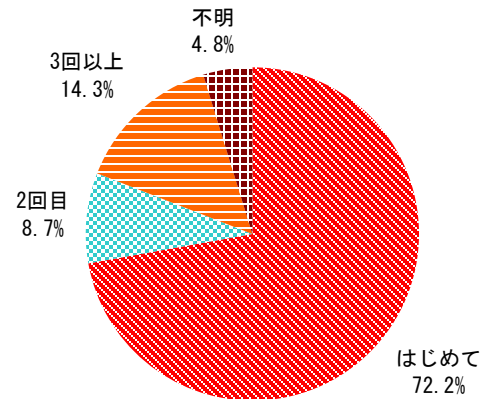
住まいごとの利用した旅行形式をみると、すべての地域からの来訪者が「個人手配旅行」の割合が最も高いが、「中国」は「団体ツアー」が13.6%である。2月の調査でも、すべての地域からの来訪者が「個人手配旅行」の割合が最も高かった。

【Q6】北海道大学訪問の主目的 【Q7】博物館の来館回数 【Q8】来館目的

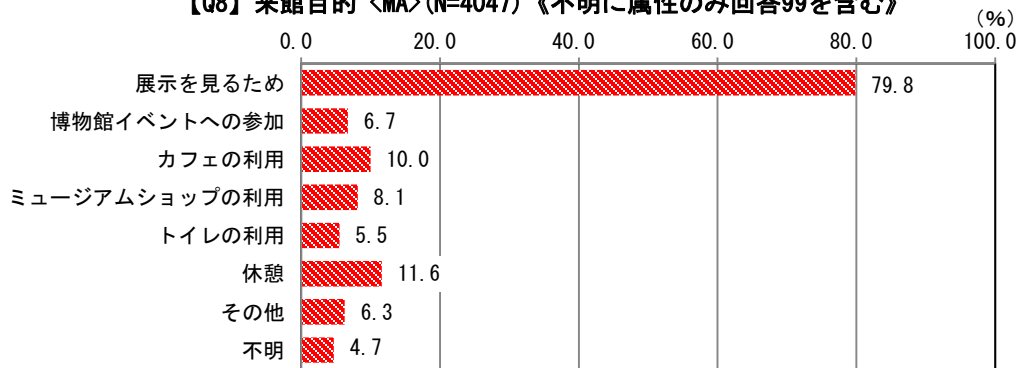
【Q6】北海道大学訪問の主目的 <SA> (N=4047)
《不明に属性のみ回答99を含む》



【Q7】博物館の来館回数 <SA> (N=4047)
《不明に属性のみ回答99を含む》



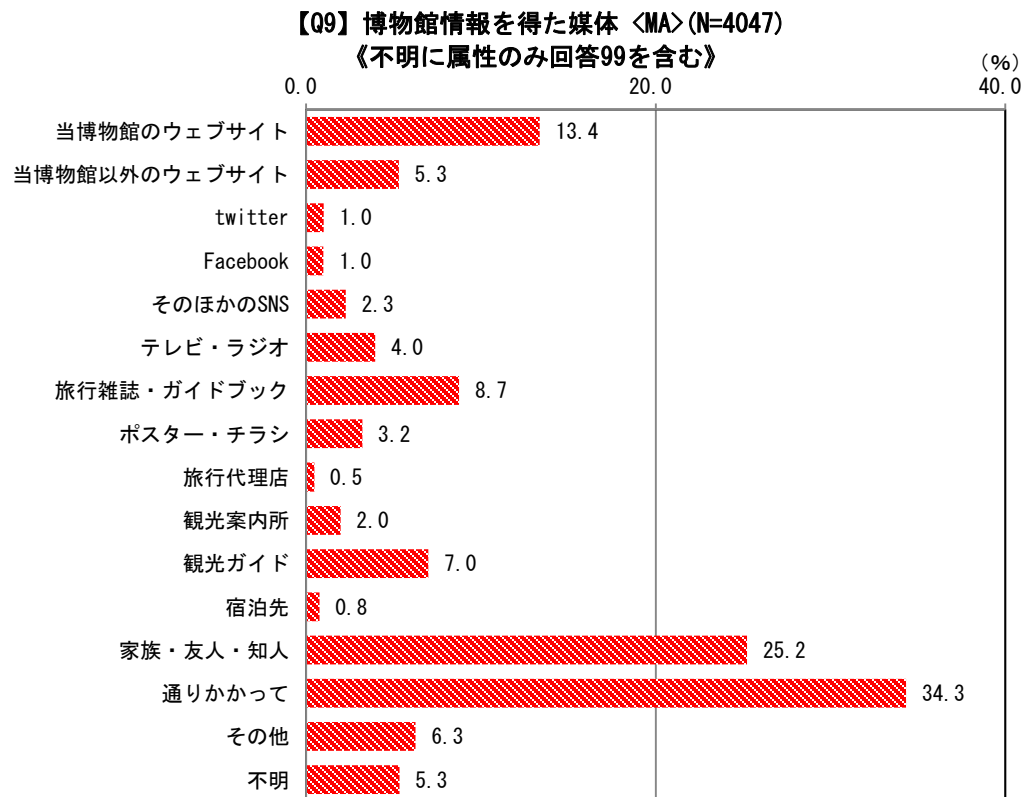
【Q8】来館目的 <MA> (N=4047) 《不明に属性のみ回答99を含む》



北海道大学訪問の主目的は、「博物館への訪問」が主目的とする回答が43.4%、「博物館への訪問以外」が51.3%となっている。博物館の来館回数は、「はじめて」が72.2%と最も高い。次に「3回以上(14.3%)」「2回目(8.7%)」となっている。博物館への来館目的は、「展示を見るため」が79.8%と最も高い。次に「休憩(11.6%)」、「カフェの利用(10.0%)」となっている。

2月の調査では、「博物館への訪問」が主目的とする回答が37.0%、「博物館への訪問以外」が43.8%となっていた。博物館の来館回数は、「はじめて」が59.5%と最も高く、次に「3回以上(14.0%)」、「2回目(7.2%)」となっていた。博物館への来館目的は、「展示を見るため」が70.4%と最も高く、「不明」「その他」を除くと、次に「カフェの利用」が10.5%となっていた。

【Q9】博物館情報を得た媒体



博物館について何で(どこで)知って訪れたかについては、「通りかかって」の割合が34.3%で最も高い。次いで「家族・友人・知人(25.2%)」「当博物館のウェブサイト(13.4%)」となっている。
2月の調査でも同様の順位であった。

【Q9】博物館情報を得た媒体

博物館情報を得た媒体（性別・年代別）

(%)

	当博物館のウェブサイト	当博物館以外のウェブサイト	t w i t t e r	F a c e b o o k	そのほかのSNS	テレビ・ラジオ	旅行雑誌・ガイドブック	ポスター・チラシ	旅行代理店	観光案内所	観光ガイド	宿泊先	家族・友人・知人	通りかかって	その他	不明
全体 (N=4, 039)	13.4	5.3	1.0	1.0	2.3	4.0	8.7	3.2	0.5	2.0	7.0	0.8	25.3	34.3	6.3	5.3
男性 (N=1, 916)	13.0	5.7	0.9	1.3	2.4	3.8	8.3	3.5	0.5	1.8	7.0	0.8	22.4	35.8	6.8	5.6
女性 (N=2, 096)	13.7	5.0	1.1	0.7	2.1	4.2	9.2	3.0	0.4	2.1	7.0	0.8	27.8	33.0	5.8	4.8
10代以下 (N=1, 036)	12.3	4.3	0.9	0.4	1.6	3.2	6.6	2.3	0.4	1.7	5.0	1.3	34.1	30.0	7.1	5.5
20代 (N=523)	10.5	4.0	2.1	1.7	2.1	1.0	6.3	2.3	0.2	2.1	6.1	1.1	22.4	47.6	4.0	6.3
30代 (N=580)	15.5	7.6	0.7	1.7	3.3	3.8	11.2	2.6	0.2	1.6	5.5	0.5	21.4	33.8	5.5	3.3
40代 (N=847)	16.9	5.9	0.8	1.5	3.4	3.4	10.0	3.1	0.6	1.9	7.7	0.5	21.0	34.6	6.5	4.1
50代 (N=491)	15.1	6.3	2.0	0.4	1.8	4.1	11.6	3.9	0.6	2.0	9.6	0.4	22.0	37.7	3.7	3.9
60代 (N=294)	9.5	4.4	-	0.7	1.4	10.9	9.2	4.1	1.0	2.4	8.5	0.7	25.5	28.2	7.5	6.8
70代 (N=200)	10.0	5.0	-	-	1.0	8.5	8.0	9.5	1.0	4.5	12.5	-	23.5	25.5	10.5	10.5
80代以上 (N=42)	4.8	-	-	-	-	4.8	-	7.1	-	-	7.1	-	33.3	21.4	21.4	11.9

性別・年代ごとの博物館について何で(どこで)知って訪れたかについては、「男性」も「女性」も「通りかかって」が最も高い。年代では、「20代」から「70代」までの年代が「通りかかって」が最も高くなっている。「10代以下」と「80代以上」は、「家族・友人・知人」から知った割合が最も高い。2月の調査では、「40代」までの年代が「通りかかって」が最も高かった。「50代」「70代」は「家族・友人・知人」が最も高く、「60代」は、「当博物館のウェブサイト」で知った割合が最も高かった。

【Q9】博物館情報を得た媒体

博物館情報を得た媒体（職業別）

(%)

	当博物館のウェブサイト	当博物館以外のウェブサイト	t w i t t e r	F a c e b o o k	そのほかのSNS	テレビ・ラジオ	旅行雑誌・ガイドブック	ポスター・チラシ	旅行代理店	観光案内所	観光ガイド	宿泊先	家族・友人・知人	通りかかって	その他	不明
全体 (N=3,969)	13.4	5.3	1.0	1.0	2.3	4.0	8.7	3.2	0.5	2.0	7.1	0.8	25.3	34.5	6.2	4.9
小学生 (N=504)	14.7	4.0	0.4	0.4	2.0	3.8	8.5	2.8	0.4	1.4	5.4	2.0	36.3	18.3	10.5	5.6
中学生 (N=163)	11.0	4.9	1.2	1.2	2.5	4.3	6.7	3.1	1.2	1.8	4.9	1.2	37.4	31.3	6.1	1.8
高校生 (N=234)	8.1	6.8	1.7	0.9	0.9	2.1	3.8	1.7	0.9	2.1	7.3	-	28.6	50.0	1.7	3.0
大学生・大学院生 (N=489)	8.6	4.5	2.2	1.8	2.2	0.2	4.9	2.7	0.2	2.2	5.7	0.6	23.7	47.9	4.5	7.0
会社員 (N=1,259)	14.9	6.2	0.7	1.3	2.9	3.0	11.0	3.3	0.5	1.7	6.8	0.7	18.8	40.0	4.8	3.3
その他 (N=1,320)	14.5	5.2	0.9	0.7	2.1	6.7	9.1	3.8	0.5	2.3	8.8	0.5	25.8	28.2	7.3	6.3

職業ごとの博物館について何で(どこで)知って訪れたかについてをみると、「高校生」「大学生・大学院生」「会社員」は、通りかかってが最も高い。「小学生」「中学生」は、「家族・友人・知人」から知った割合が最も高い。2月の調査でも、同様の順位だった。

【Q9】博物館情報を得た媒体

博物館情報を得た媒体（住まい別）

(%)

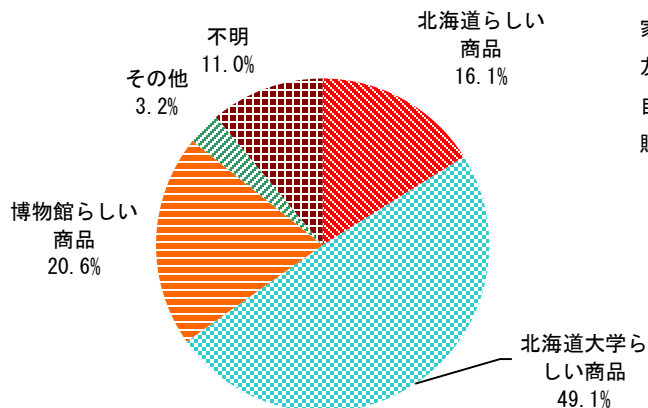
	当博物館のウェブサイト	当博物館以外のウェブサイト	t w i t t e r	F a c e b o o k	そのほかのSNS	テレビ・ラジオ	旅行雑誌・ガイドブック	ポスター・チラシ	旅行代理店	観光案内所	観光ガイド	宿泊先	家族・友人・知人	通りかかって	その他	不明
全体 (N=4, 024)	13.4	5.3	1.0	1.0	2.3	4.0	8.8	3.2	0.5	2.0	7.0	0.8	25.2	34.4	6.3	5.1
札幌市内 (N=1, 122)	17.6	3.2	2.0	1.2	0.7	6.1	2.0	5.9	-	1.0	4.1	0.2	29.9	26.5	12.5	8.3
北海道内(札幌市を除く) (N=387)	24.3	5.9	0.8	1.3	1.3	15.0	2.3	5.7	0.8	1.3	4.7	0.3	28.2	18.3	9.6	5.4
日本国内(北海道を除く) (N=1, 654)	12.5	5.1	0.7	0.3	0.5	1.8	11.8	1.0	0.1	1.5	8.9	0.7	23.0	40.1	2.8	4.4
中国 (N=400)	4.5	11.5	0.3	0.3	10.5	1.0	10.8	3.0	2.8	3.8	7.5	2.8	21.8	44.5	3.5	2.0
台湾 (N=146)	4.1	6.2	0.7	4.1	4.1	-	15.1	2.1	-	2.7	6.2	-	27.4	43.8	0.7	2.7
韓国 (N=174)	5.7	2.3	0.6	1.7	10.9	-	20.7	2.9	1.1	6.9	8.0	2.3	16.7	38.5	4.0	1.7
香港 (N=50)	4.0	8.0	-	4.0	6.0	-	28.0	2.0	2.0	6.0	6.0	-	24.0	26.0	4.0	2.0
タイ (N=19)	5.3	5.3	-	-	-	-	15.8	5.3	-	5.3	10.5	5.3	26.3	21.1	5.3	-
マレーシア (N=2)	-	50.0	-	-	-	-	-	50.0	-	-	50.0	-	-	-	-	-
シンガポール (N=5)	20.0	20.0	-	20.0	-	-	20.0	-	-	40.0	20.0	-	-	20.0	-	-
その他 (N=65)	6.2	6.2	1.5	4.6	1.5	-	10.8	3.1	-	4.6	13.8	1.5	27.7	38.5	7.7	4.6

住まいごとの博物館について何で(どこで)知って訪れたかについてをみると、「日本国内(北海道を除く)」「中国」「台湾」「韓国」からの来訪者は、「通りかかって」が最も高い。「札幌市内」と「北海道内(札幌市を除く)」「タイ」からの来訪者は、「家族・友人・知人」から知った割合が高い。「香港」は「旅行雑誌・ガイドブック」が最も高くなっている。

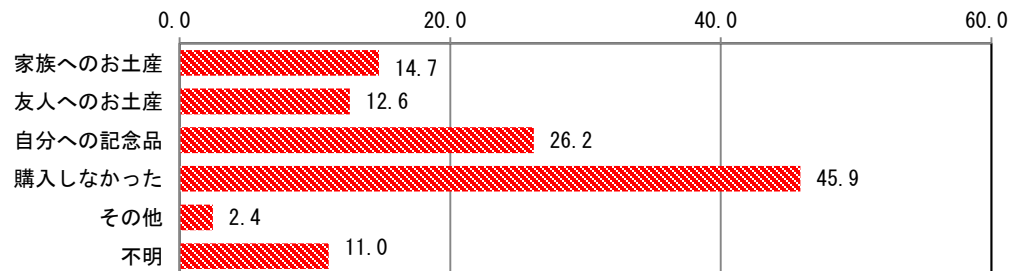
2月の調査では、「札幌市内」からの来訪者は、「家族・友人・知人」から知った割合が高かった。「北海道内(札幌市を除く)」は、「当博物館のウェブサイト」が最も高く、「日本国内(北海道を除く)」「中国」「台湾」「韓国」「香港」は、「通りかかって」が最も高かった。

【Q10】希望するショップの品揃え 【Q11】購入した商品の用途 【Q12】カフェで飲食したものの

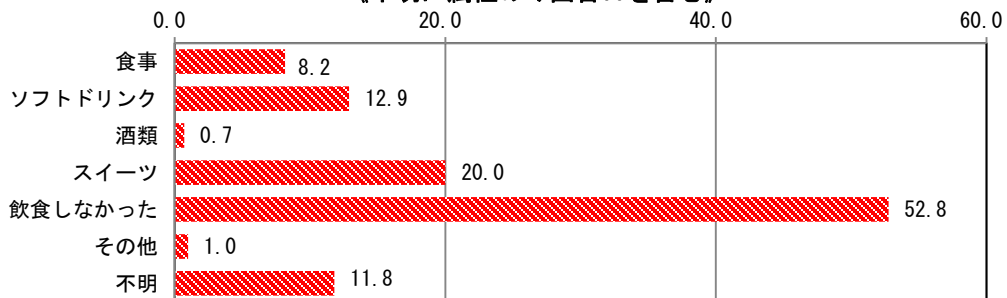
【Q10】希望するショップの品揃え <SA>(N=4047)
《不明に属性のみ回答99を含む》



【Q11】購入した商品の用途 <MA>(N=4047)
《不明に属性のみ回答99を含む》



【Q12】カフェで飲食したもの <MA>(N=4047)
《不明に属性のみ回答99を含む》



博物館のショップに対する品ぞろえの希望は、「北海道大学らしい商品」が49.1%で最も高い。次いで「博物館らしい商品(20.6%)」「北海道らしい商品(16.1%)」となっている。ショップでの商品の購入については、「購入しなかった」割合が45.9%で最も高かった。購入した場合は、「自分への記念品」が最も高かった。カフェの利用については、「飲食しなかった」が52.8%で最も高かった。飲食した場合は「スイーツ」が20.0%、「ソフトドリンク」が12.9%となった。2月の調査では、「北海道大学らしい商品」が44.9%と最も高く、次いで「博物館らしい商品(17.1%)」「北海道らしい商品(10.8%)」となっていた。ショップでの商品の購入については、「購入しなかった」が42.5%と最も高く、購入した場合は「自分への記念品」が22.4%、「友人へのお土産」が10.1%、「家族へのお土産」が9.9%となっていた。カフェの利用については、「飲食しなかった」が46.8%と最も高かった。飲食した場合は「スイーツ」が14.5%、「ソフトドリンク」が11.1%となっていた。

【Q13】大学構内の訪問場所

【Q13】大学構内の訪問場所 <MA> (N=4047) <不明に属性のみ回答99を含む>

(%)

	「エルム の森」	インフォメーションセンター	学術交流会館	百年記念会館	北大マルシェ	附属図書館	サクシユコトニ川	中央ロイン	古河講堂	クラーク像(胸像)	クラーク会館	クラーク会館	農学部本館	埋蔵文化財調査センター	中央食堂	大野池	ポプラ並木	第1農場	イチョウ並木	北海道大学病院	遠友学舎	札幌農学校第2農場	講義室・研究室など	植物園	上記以外のレストラン・食堂	キャンパス全体	古い建物	博物館以外は訪問しない	その他	不明
全体 (N=4047)	17.5	2.0	5.1	6.0	6.0	6.0	9.6	7.0	28.0	6.2	1.3	5.1	1.0	12.1	10.4	26.9	2.8	18.7	2.6	0.6	5.5	2.2	7.8	4.9	15.6	8.3	12.6	5.3	7.9	

大学構内の訪問場所 (住まい別)

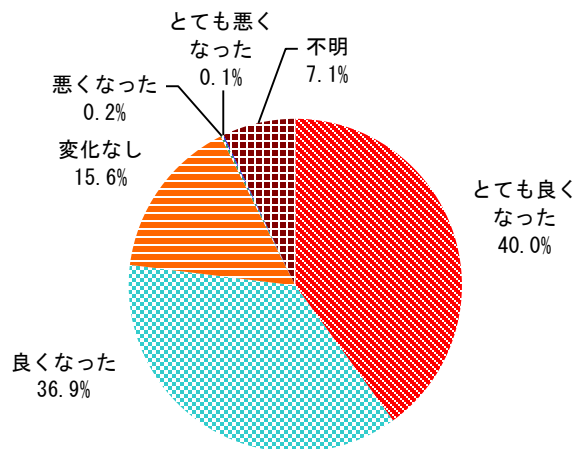
(%)

	「エルム の森」	インフォメーションセンター	学術交流会館	百年記念会館	北大マルシェ	附属図書館	サクシユコトニ川	中央ロイン	古河講堂	クラーク像(胸像)	クラーク会館	クラーク会館	農学部本館	埋蔵文化財調査センター	中央食堂	大野池	ポプラ並木	第1農場	イチョウ並木	北海道大学病院	遠友学舎	札幌農学校第2農場	講義室・研究室など	植物園	上記以外のレストラン・食堂	キャンパス全体	古い建物	博物館以外は訪問しない	その他	不明
全体 (N=4,024)	17.6	1.9	5.1	6.0	6.0	6.0	9.6	7.1	28.1	6.1	1.3	5.1	1.0	12.2	10.4	27.0	2.8	18.7	2.7	0.6	5.5	2.2	7.8	4.9	15.6	8.3	12.6	5.3	7.8	
札幌市内 (N=1,122)	11.0	1.3	2.2	6.8	6.6	6.6	5.4	6.2	2.9	11.3	5.6	0.5	3.3	1.0	12.3	10.6	11.2	2.9	10.9	2.2	1.0	3.5	3.4	3.2	6.1	9.7	4.5	19.6	8.2	12.3
北海道内(札幌市を除く) (N=387)	12.1	1.3	2.8	6.7	4.4	4.1	3.9	1.8	13.4	4.9	0.5	2.8	1.3	12.7	9.3	16.3	1.0	11.9	3.1	1.0	8.3	1.6	7.0	5.4	10.3	3.4	25.3	3.6	8.3	
日本国内(北海道を除く) (N=1,654)	25.2	0.8	2.0	5.3	4.6	5.9	5.1	8.6	41.8	7.7	0.7	6.1	0.5	9.8	6.8	39.3	2.2	23.0	1.5	0.2	5.7	1.8	5.3	4.2	17.1	6.8	7.6	4.6	6.9	
中国 (N=400)	9.5	7.3	25.0	8.3	11.3	7.5	26.8	13.5	28.0	2.8	6.0	8.8	3.3	15.8	14.5	23.8	7.3	22.0	7.5	1.0	8.5	1.0	23.0	6.8	25.5	18.8	4.5	4.0	3.0	
台湾 (N=146)	12.3	2.1	13.0	2.7	4.8	6.2	21.9	23.3	44.5	6.8	1.4	4.1	-	30.8	20.5	28.8	2.1	33.6	2.1	-	2.7	2.1	13.7	2.7	26.7	28.8	3.4	4.1	4.8	
韓国 (N=174)	25.9	4.0	3.4	1.7	7.5	7.5	35.6	4.6	33.9	6.3	1.7	5.2	0.6	9.8	17.2	43.1	2.9	19.0	4.6	-	5.7	0.6	13.8	0.6	16.7	10.9	16.7	1.1	4.6	
香港 (N=50)	18.0	2.0	14.0	10.0	6.0	4.0	14.0	4.0	14.0	-	2.0	4.0	-	14.0	16.0	32.0	2.0	24.0	4.0	-	4.0	2.0	2.0	2.0	10.0	20.0	2.0	2.0	4.0	
タイ (N=19)	15.8	-	-	5.3	5.3	21.1	-	-	26.3	10.5	-	10.5	5.3	5.3	31.6	10.5	5.3	57.9	5.3	-	5.3	10.5	26.3	10.5	10.5	31.6	15.8	-	-	
マレーシア (N=2)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	50.0	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-	-	-	
シンガポール (N=5)	-	-	20.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20.0	-	-	20.0	-	-	-	-	-	40.0	-	20.0	-	40.0	20.0	
その他 (N=65)	10.8	7.7	7.7	7.7	9.2	12.3	15.4	7.7	15.4	4.6	3.1	6.2	1.5	10.8	24.6	24.6	3.1	15.4	3.1	1.5	6.2	4.6	29.2	7.7	23.1	9.2	9.2	7.7	1.5	

博物館以外の大学構内の訪問場所については、「クラーク像(胸像)」が28.0%と最も高い。次いで「ポプラ並木(26.9%)」「イチョウ並木(18.7%)」となっている。住まいごとの大学構内の訪問場所は、「札幌市内」と「北海道内(札幌市を除く)」からの来訪者が、「博物館以外は訪問しない」が最も高い。「日本国内(北海道を除く)」「中国」「台湾」は「クラーク像(胸像)」が最も高い。「韓国」「香港」は「ポプラ並木」が最も高い。「タイ」は「イチョウ並木」が最も高い。2月の調査では、「クラーク像(胸像)」が19.9%と最も高く、次いで「キャンパス全体(15.2%)」「ポプラ並木(14.4%)」となっていた。住まいごとの大学構内の訪問場所は、「札幌市内」と「北海道内(札幌市を除く)」からの来訪者は「博物館以外は訪問しない」が最も高く、「日本国内(北海道を除く)」「台湾」「韓国」は「クラーク像(胸像)」が最も高かった。「中国」は「キャンパス全体」が最も高く、「香港」は「古い建物」が最も高かった。

【Q14】北海道大学に対するイメージの変化

【Q14】北海道大学に対するイメージの変化 <SA>
《不明に属性のみ回答99を含む》



北海道大学に対するイメージの変化（職業別） (%)

	とても良くなった	良くなった	変化なし	悪くなった	とても悪くなった	不明
全体 (N=3,969)	40.2	37.1	15.6	0.2	0.1	6.8
小学生 (N=504)	46.0	24.2	17.1	0.4	0.4	11.9
中学生 (N=163)	41.1	35.0	18.4	-	-	5.5
高校生 (N=234)	35.5	38.5	20.5	0.9	-	4.7
大学生・大学院生 (N=489)	29.4	40.5	23.1	0.2	-	6.7
会社員 (N=1,259)	41.6	40.2	13.3	0.2	0.1	4.7
その他 (N=1,320)	41.3	37.7	13.4	0.2	0.1	7.3

北海道大学に対するイメージの変化（住まい別） (%)

	とても良くなった	良くなった	変化なし	悪くなった	とても悪くなった	不明
全体 (N=4,024)	40.1	37.0	15.7	0.2	0.1	6.9
札幌市内 (N=1,122)	35.5	31.9	22.8	0.3	0.1	9.4
北海道内 (札幌市を除く) (N=387)	38.8	38.5	17.1	0.8	-	4.9
日本国内 (北海道を除く) (N=1,654)	43.9	37.6	12.2	0.1	0.2	6.0
中国 (N=400)	45.8	38.3	8.5	-	-	7.5
台湾 (N=146)	39.0	41.8	13.0	-	-	6.2
韓国 (N=174)	29.3	54.6	12.1	-	-	4.0
香港 (N=50)	28.0	44.0	26.0	-	-	2.0
タイ (N=19)	31.6	42.1	21.1	-	-	5.3
マレーシア (N=2)	100.0	-	-	-	-	-
シンガポール (N=5)	-	60.0	20.0	20.0	-	-
その他 (N=65)	41.5	27.7	23.1	-	-	7.7

北海道大学に対するイメージの変化は、「とても良くなった」と「良くなった」が合わせて76.9%となっている。職業別でみると、「小学生」「中学生」「会社員」が「とても良くなった」と回答している割合が高い。住まい別でみると、「札幌市内」「北海道内(札幌市を除く)」「日本国内(北海道を除く)」「中国」「マレーシア」が「とても良くなった」と回答している割合が高い。自由記述では、「自然」「緑」「広い」というキーワードが使われた記述が多くみられ、「子どもと訪れた」や、子どもによる記述が多くみられた。また、博物館の展示に関しては「学部ごとの展示で理解が深まった」「展示が充実している」などの記述が多かった。2月の調査では、イメージの変化は「とても良くなった」と「良くなった」が合わせて65.9%となっていた。職業別でみると、「小学生」「中学生」「会社員」が「とても良くなった」と回答している割合が高く、住まい別にみると、「北海道内(札幌市を除く)」「中国」「台湾」「タイ」からの来訪者が「とても良くなった」と回答している割合が高かった。